

## 九州ブロックミニバスケットボール連盟マンツーマン講習会に参加して

JBA技術委員会ユース育成部ワーキンググループ・JBAマンツーマン推進プロジェクト指導グループ・日本ミニバスケットボール連盟普及技術委員長の牧野広良さんを招いて、福岡県宗像市で開催されたときめきカップでコミッショナー技術講習会がありました。

『マンツーマンを基軸としたチーム・理論の構築及びU-15との連携』と題して開催

### マンツーマン推進に関わるチームの育成

#### (1) 気持ち作り

##### ①指導者の学習と資質について

サカイカップ1日・2日目では、コミッショナーが黄色旗を上げるたびに違反行為の説明をしていたが、コミッショナーが説明する必要はなく、指導者または選手が黄色旗に気づいて違反行為を指導者の声掛けまたは選手自らで是正しなければならない。

指導者がしっかりと『マンツーマン推進』を学習し、質を高め、ゴールデンエイジと呼ばれる選手の可能性と心の育成を図るということ。

※ なぜ黄色旗が上がっているのかわからないまま放置してしまうとすぐ赤旗になってしまうので、指導者はJBAから出されている『マンツーマンディフェンスの基準規則』・『マンツーマンディフェンスの基準規則・補足解説』をよく理解されていくください。

※ コミッショナーはアドバイスしません。(コミュニケーションは取ります。)

※ 選手も違反行為がすぐわかるように日ごろから指導しましょう。

※ 声・指さし・ナンバーコールは当たり前のようにできていないといけません。

コミッショナーが見ているポイント・・・指導者の質です

ベンチがどういう声掛けをしているかを見ています。

#### (2) ヘルプ・ローテーションについて

①ボールを持っていない選手にマッチアップするディフェンス側プレイヤーは、リングを守るために、オンボールディフェンス側プレイヤーをヘルプできる。

オンボールディフェンス側プレイヤーがペネトレーションを止められず、抜かれた場合、※明らかに抜かれそうな場合(オフenseの体がディフェンスの真横になった場合等)、リングへ向かうドリブルペネトレーションに対しては、ヘルプディフェンスが許される。

オフボールディフェンス側プレイヤー側は、ヘルプディフェンスのために一時的にディフェンスポジションを変えること(ヘルプローテーション)が許される。ただし、ヘルプディフェンス後、全てのディフェンス側プレイヤーは、直ちにオフense側プレイヤーとマッチアップしなければならない。

※ ドリブルでリングに向かうドライブに対しては、一時的にマッチアップしているディフェンスから目線を切ってヘルプポジションに行ってもかまいません。基準は『抜かれた場合』『明らかに抜かれそうな場合』です。ただしヘルプディフェンスが必要なくなった場合や、スイッチ・ローテーションを行った場合は直ちにマッチアップをしなければなりません。ショーバックも可能です。

コミッショナーが見ているポイント・・・オンボール状況とヘルプディフェンスの関係です。  
本当に『抜かれた場合』『明らかに抜かれそうな場合』なのか

### (3) トラップについて

#### トラップができる場面

- ① ドリブルが行われている時（ドリブルをついてないプレイヤーにはトラップできない）、またはドリブルが終わった時。
- ② オフボールのプレイヤーに向かってのパスが空中にあるときにトラップできる位置にディフェンスプレイヤーが動いた時。
- ③ 移動が容易に行える距離にある時（2～3m）

※ ドリブルをついてないプレイヤーにトラップはできません。

※ オールコートでトラップディフェンス・マンツーマンプレスディフェンスする場合でもマッチアップの基準に合致していなければいけません。

### (4) その他

ヘルプポジションやオープンスタンスの時に、ボールとマッチアップしているプレイヤーを見ているアピール（首を何度も振る＝首フリ行為）が多くなっているそうです。

首フリ行為をしている時点で黄色旗を上げられる可能性があります。しっかりマッチアップしているプレイヤーを確認したらポジションをこまめに移動するようにしましょう。

※ 黄色旗が頻繁に上がる時は、2線・3線目のプレイヤーの『体の向き』と『目線』を確認しましょう。